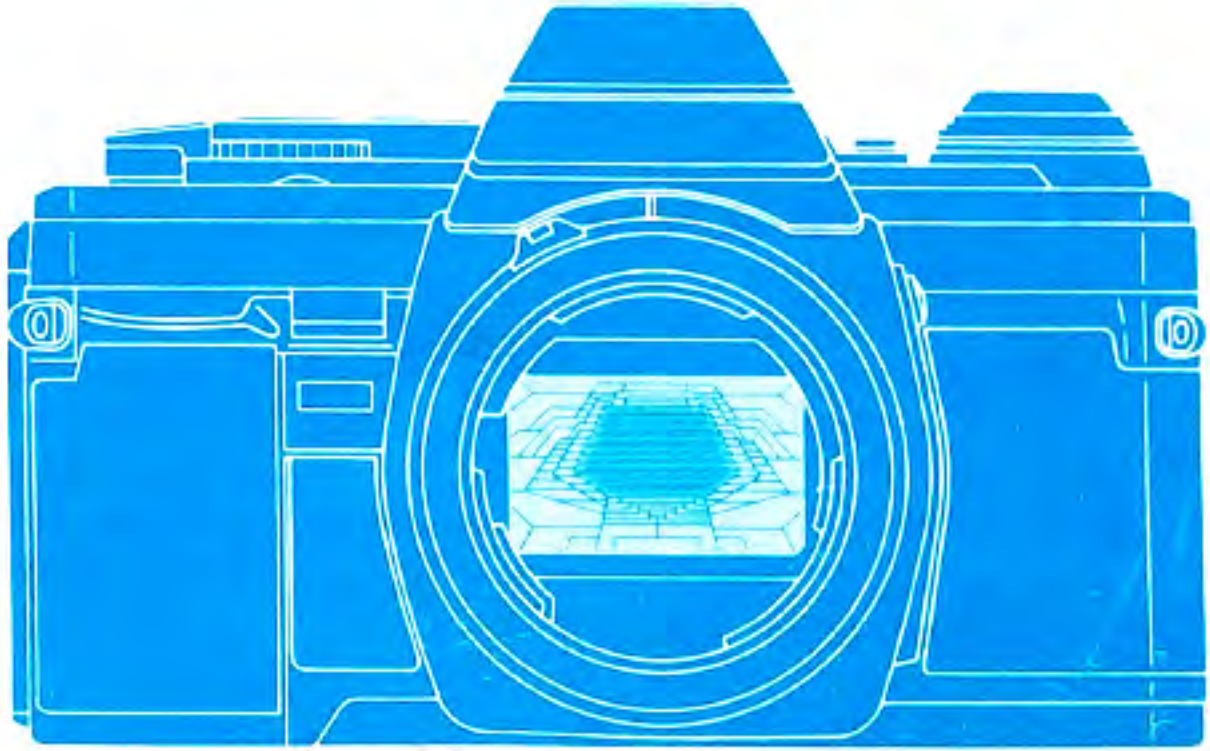
MINOLTA

X-600

使用説明書

ご使用前に
必ずお読みください



お買い上げありがとうございます。

ミノルタX-600は、電子式焦点検出機構(SFシステム)を内蔵したオート撮影(絞り優先AE撮影)およびマニュアル撮影のできる高級一眼レフカメラです。

- LEDと電子ブザー音のフォーカスモニターでピントの合致が確認でき、すばやく正確なピント合わせができます。
- オート撮影では、絞りを決めてシャッターを切るだけの簡単な操作で、気楽に美しい写真が写せます。
- オートエレクトロフラッシュ280PX・360PXを装着すれば、自由に絞りが選べるダイレクト測光オートフラッシュ撮影ができます。
- AEロックを使用すれば、逆光などの難しい露出条件でも簡単に露出を補正してオート撮影ができるほか、スローシンクロ(低速度同調)によるオートフラッシュ撮影も楽しめます。
- マニュアル撮影では、自由に絞りとシャッター速度を組み合わせて撮影できます。ファインダー内で、適正シャッター速度・設定シャッター速度が確認できます。

なお、X-600の性能を十分ご活用いただくために、本使用説明書は最後までお読みください。また、本使用説明書とは別に「X-600オート撮影早わかり」も用意しておりますのであわせてご覧ください。

ミノルタX-600の機能を活用していただくためには、当社独自のノウ・ハウによりカメラに適合するように設計・製造管理されている、交換レンズおよび付属品の使用をおすすめします。当社製品以外の交換レンズまたは付属品を単に装着できるというだけでお使いになる場合、どのようなことが起こるか、当社では予測できません。

この使用説明書の写真および内容説明は、MD50mmF1.7レンズ付で行なっていますが、ほかのMDレンズをお買い求めの方も使用方法は同じです。
なお、この使用説明書はX-600の使い方が中心となっていますので、撮影上の一般的知識は別の専門書をお読みください。

目　次

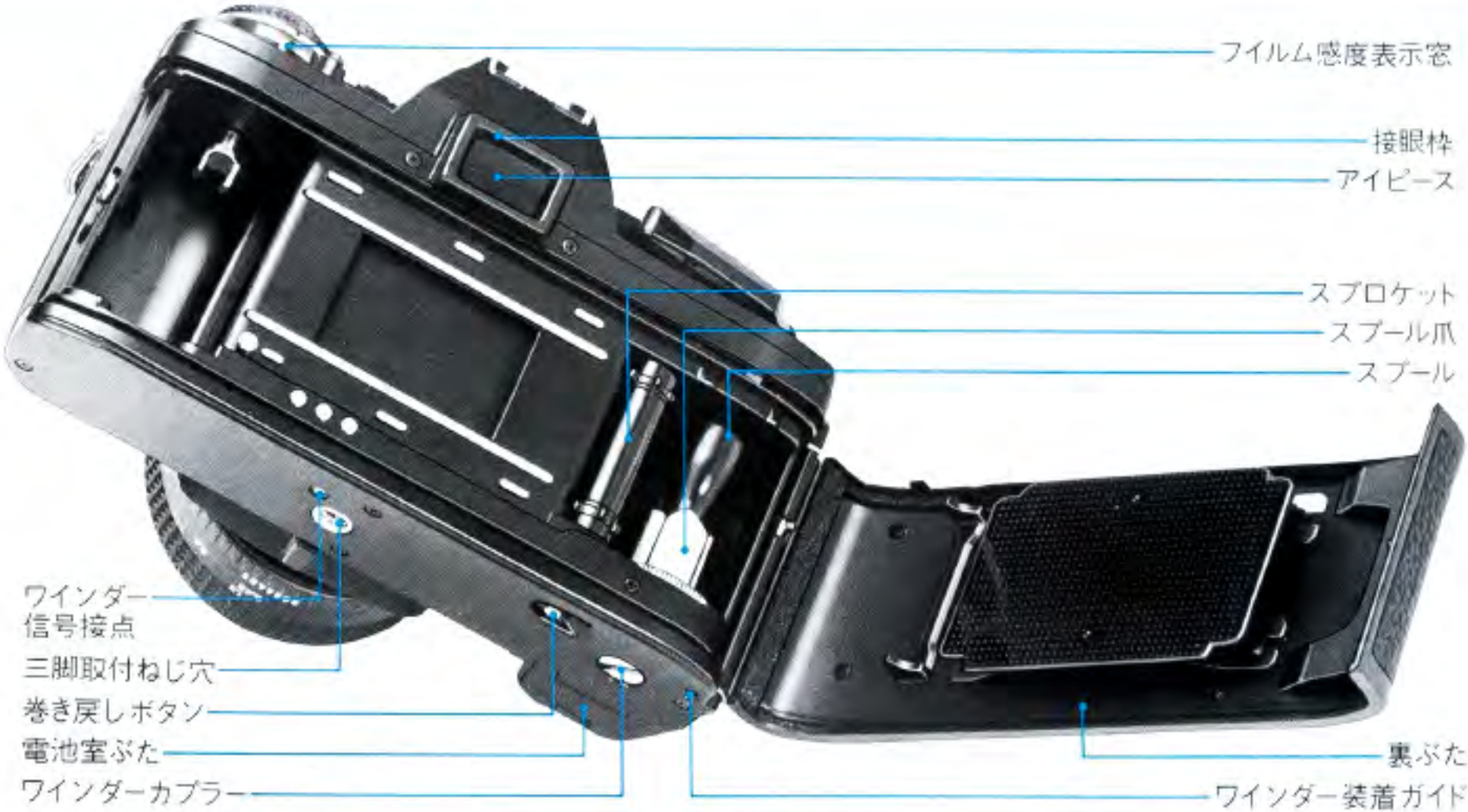
各部の名称……2
撮影の準備……4
ストラップの取り付け……5
レンズの着脱……6
電池を入れて性能をチェック……8
基本的な使い方……10
メインスイッチについて……11
フイルムの入れ方……13
フイルム感度の合わせ方……16
メモホルダーについて……17
SFシステムによるピント合わせ……18
オート撮影(絞り優先AE撮影)……26
フイルムの巻き戻し方……29
セルフタイマー撮影……31
フラッシュ撮影……34
(オートエレクトロフラッシュ280PX・360PXを使用する場合)
応用的な使い方……38
AEロックによる露出補正……39
スローシンクロオートフラッシュ撮影……43
マニュアル撮影……48
バルブ撮影(長時間露出撮影)……51
フラッシュ撮影……53
(ミノルタXシリーズのフラッシュを使用する場合)
フラッシュ撮影……56
(ミノルタXシリーズ以外のフラッシュを使用する場合)
被写界深度について……57
赤外線写真撮影……59
連動範囲について……60
交換レンズおよび付属品について……61
ケース(別売)の着脱……64
専用アクセサリー……65
電池に関する注意……72
手入れの仕方……72
保管の仕方……73
取扱い上の注意……73
SFシステムに関するQ&A……74
主な性能……75
アフターサービスについて……77

各部の名称



ダイレクトオートコントロール接点
シャッター速度表示窓
シャッター速度指標
巻き上げレバー
フィンガーレスト
フイルムカウンター
フイルムシグナル窓
シャッターダイヤル
シャッターボタン
セルフタイマーレバー/AEロックレバー
三角環
グリップ/電池室
セルフ作動表示ランプ

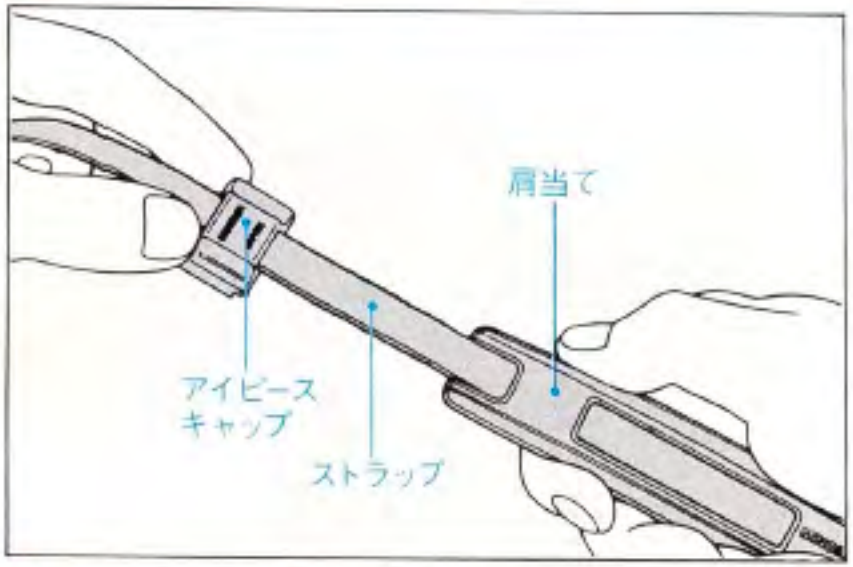
ダイレクト接点
シンクロオートコントロール接点
アクセサリーシュー(ホットシュー)
巻き戻しクランク
裏ぶた開閉ノブ
フイルム感度ダイヤル
フイルム感度ダイヤルロックボタン
メインスイッチ
レンズ交換ボタン
絞りリング
リモートレリーズターミナル
距離リング
バヨネット標点(赤点)


フイルム感度表示窓
接眼枠
アイピース
スプロケット
スプール爪
スプール
ワインダー
信号接点
三脚取付ねじ穴
巻き戻しボタン
電池室ぶた
ワインダーカプラー
裏ぶた
ワインダー装着ガイド

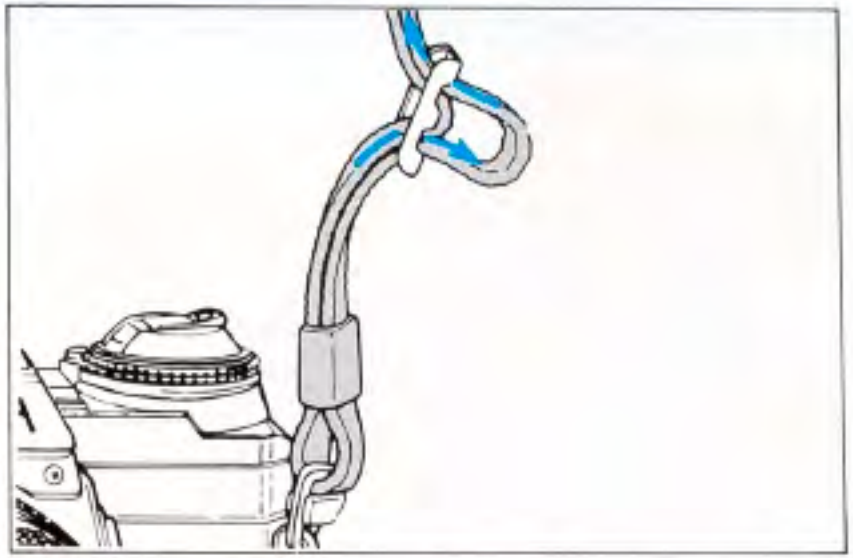
撮影の準備



ストラップの取り付け



1 ストラップを肩当て、アイピースキャップに通します。



2 ストラップの両端を三角環に通して固定します。

レンズの着脱

1. レンズの取り付け方



1 ボディキャップとレンズ後キャップをはずします。



2 レンズキャップをはずします。



3 レンズのバヨネット標点(赤点)をボディの赤指標に合わせてはめ込み、ロックがかかるまで回して取り付けます。

2. レンズの取りはずし方



レンズを取りはずすときは、レンズ交換ボタンを押したまま、止まるまで回して、前方に引出してはずします。

電池を入れて性能をチェック

（X-600は電池かないと作動しませんので、必す電池を入れてからお使いください。）

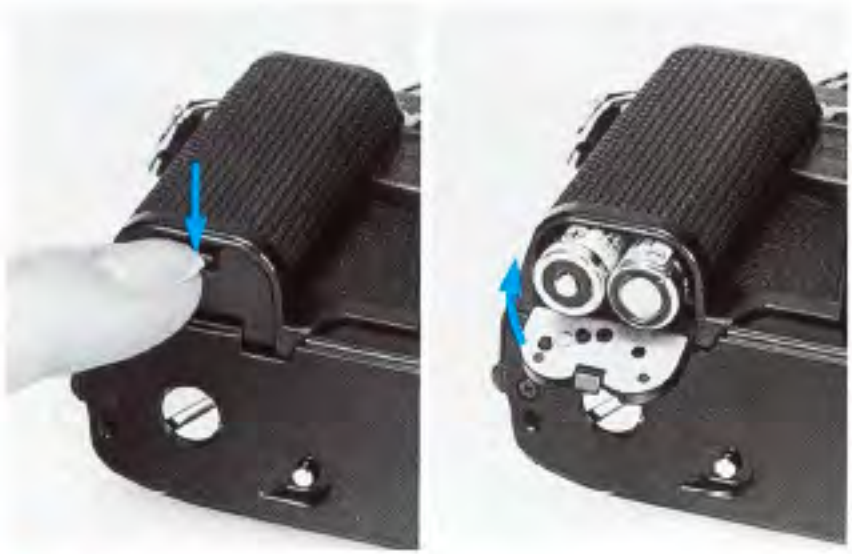
使用する電池



- 単4形アルカリ乾電池(1.5V)
- 単4形マンガン乾電池(1.5V)

上記のどちらか同じものを2本使います。

- ニッケル・カドミウム蓄電池(Ni-Cd電池)は使用できません。



1 電池室ぶたを開けます。

2 電池室の内側にある極性表示(⊕、⊖)に従って電池を2本入れます。

3 電池室ぶたを押して閉めます。



4 メインスイッチをスライドさせてONまたはONにセットします。



5 シャッターボタンに指を触れて、ファインダー内にA(またはM)のLEDが点灯するかどうか確かめます。

(指を触れても点灯しないときはシャッターボタンを少し押してください)。

❶ A(またはM)のLEDが点灯すれば電池性能は十分です。

❷ A(またはM)のLEDが点滅したときは電池性能が低下しています。新品電池をご用意ください。

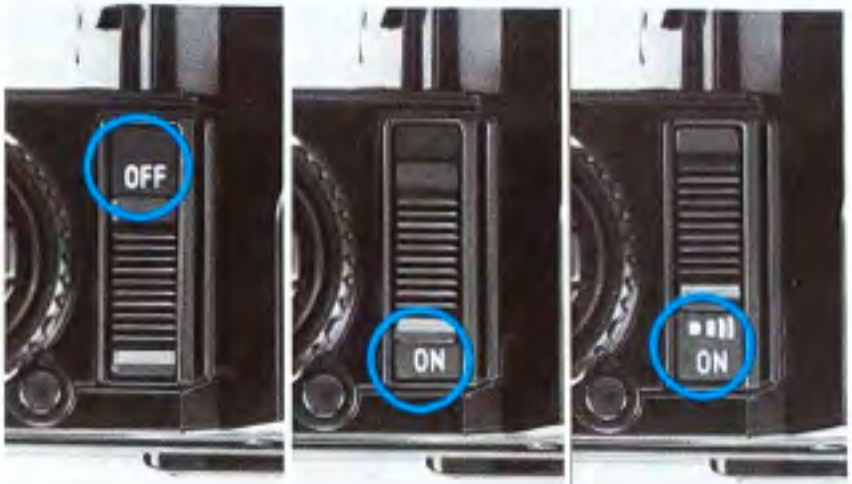
❸ LEDが点灯しないときは、電池の入れ方が間違っていないか確認してください。間違っていない時は電池が完全に消耗していますので、新品電池と交換してください。

● P.72の「電池に関する注意」も併せてお読みください。

基本的な使い方



メインスイッチについて



メインスイッチには、OFF、ON、ONの3つの切り換え位置があります。

- カメラを使用するときは ON または ON にセットします。
- カメラを使用しないときは OFF にセットします。

ONまたはONでは……



①シャッターボタンに指を触れると、測光および焦点検出が開始され、撮影に必要な情報がファインダー内 LED で表示されます。

- ファインダー内表示は、シャッターボタンから指を離しても15秒間継続されます。
- 手袋など、指を覆うものをはめているときは、シャッターボタンを少し押すと測光回路が働きます。

②巻き上げレバーを巻き上げてシャッターボタンを押すと、シャッターが切れます。

ON では……



①ピントが合うと電子ブザー音が鳴って知らせます。
②オート撮影で、1/30秒以下の遅いシャッター速度のとき、シャッターボタンに指を触れると電子ブザー音が鳴ってカメラぶれを警告します。
③セルフタイマー撮影で、シャッターボタンを押してセルフタイマーをスタートをさせると電子ブザー音が鳴ってタイマーの作動を表示します。

- 電子ブザー音が不要なときは、メインスイッチをONにしてください。

OFF では……

シャッターレリーズがロックされて、シャッターボタンを押してもシャッターは切れませんので不用意にシャッターが切れるのを防げます。また、シャッターボタンに指を触れてもファインダー内表示は行なわれません。

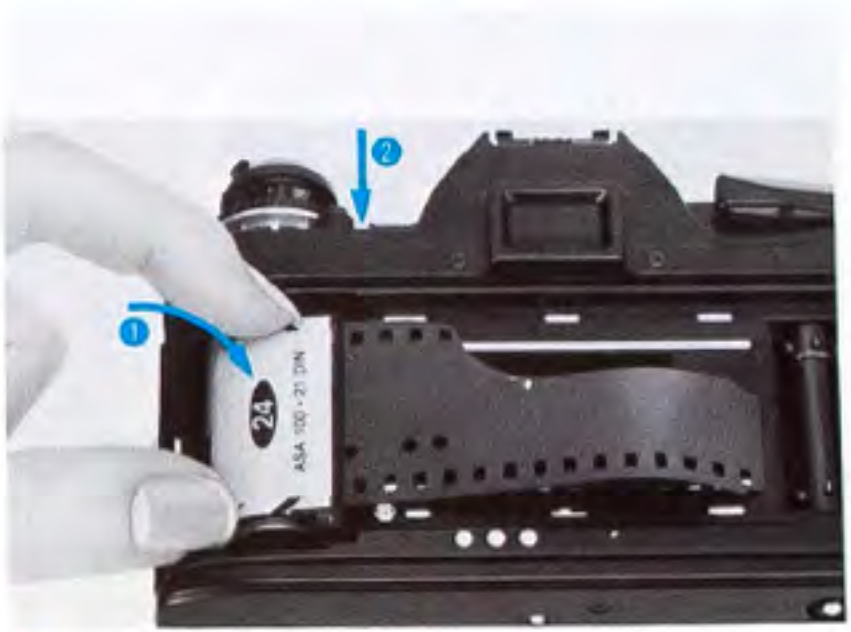
フイルムの入れ方 (フイルムの出し入れは、直射日光を避けて行なってください。)

使用するフイルム

パトローネ入り35㎜フイルム(135型)を使用します。

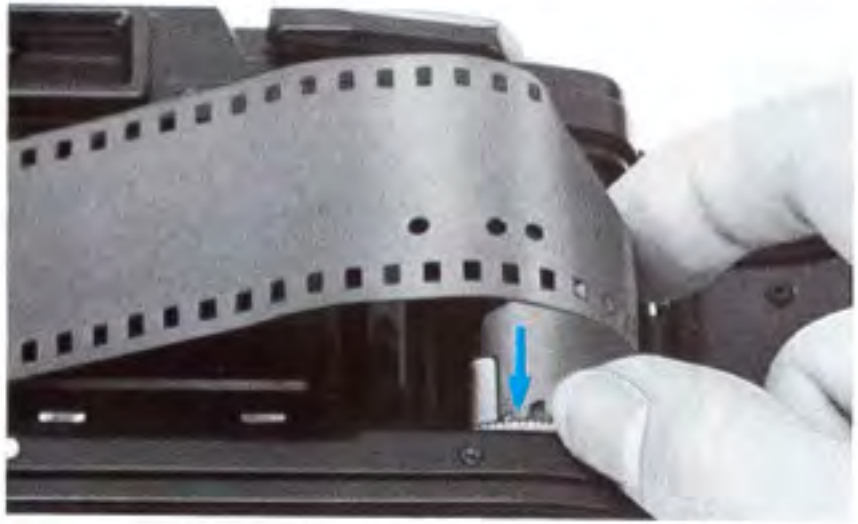


1 巻き戻しクランクを起こし、上に引き上げて裏ぶたを開けます。



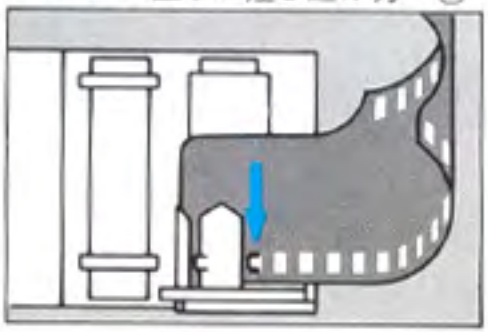
2 フイルムを入れます。❶

3 フイルムを入れたら裏ぶた開閉ノブをもとにもどします。❷

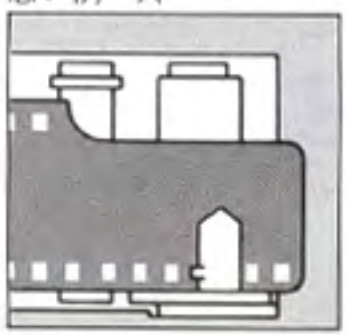


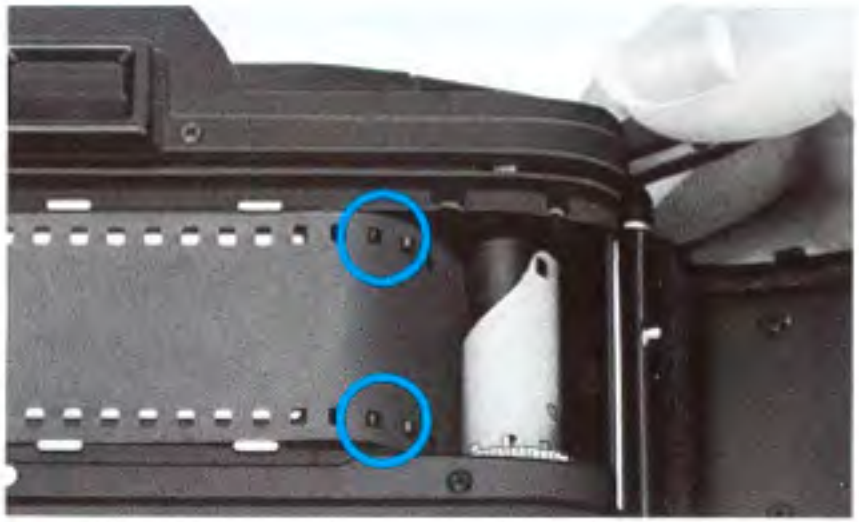
4 フイルムの先をスプール爪に差し込みます。

フイルムの正しい差し込み方 ○



悪い例 ×





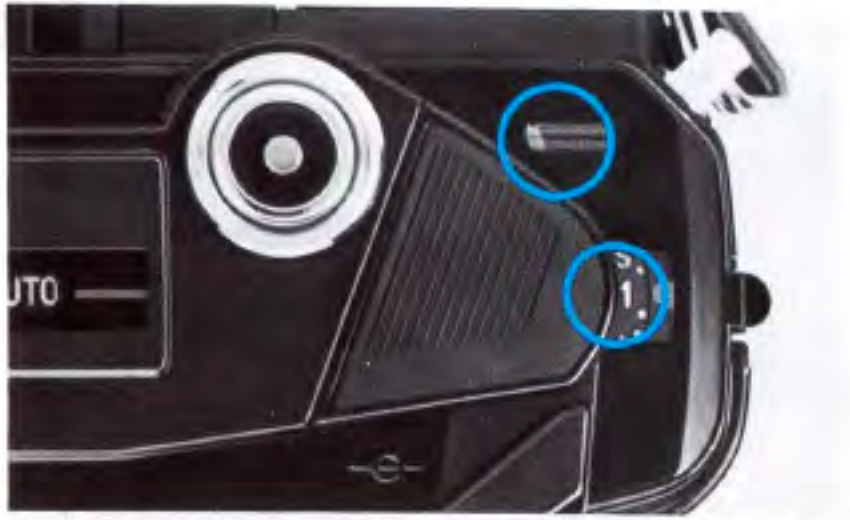
5 フイルムの上下の穴が、スプロケットの歯にかみ合うように巻き上げてシャッターを切る操作を繰り返します。

★巻き上げレバーをいっぱいまで巻き上げて完全に戻らないと、シャッターは切れません。

●暗いところやレンズキャップをつけたままでシャッターを切るときは、シャッターダイヤルを1000などの速いシャッター速度にセットしてください。



6 裏ぶたを静かに閉じます。



7 フイルムカウンターが1になるまで、フイルムを巻き上げてシャッターを切る操作を繰り返します。

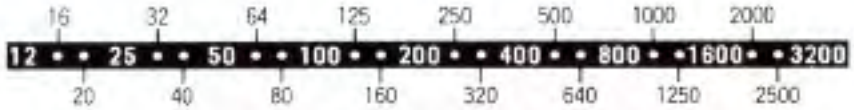
- フイルムが正しく送られていれば、フイルムシグナル窓の左側に赤色のシグナルが出ます。シグナルが出ないときは、フイルムを入れ直してください。
- フイルムシグナル窓を見れば、フイルムが入っているかどうかひと目でわかります。

フイルム感度の合わせ方（フイルムを入れたあとは、必ず使用するフイルムの感度（ASA/ISO感度）を合わせます）



フイルム感度ダイヤルロックボタンを押しながらフイルム感度ダイヤルを回し、使用フイルムの感度（ASA/ISO 100なら、100）をフイルム感度表示窓下の指標に合わせます。

- フイルム感度目盛の中間値は、次のとおりです。



- フイルム感度ダイヤルは必ずロック位置で止めてください。

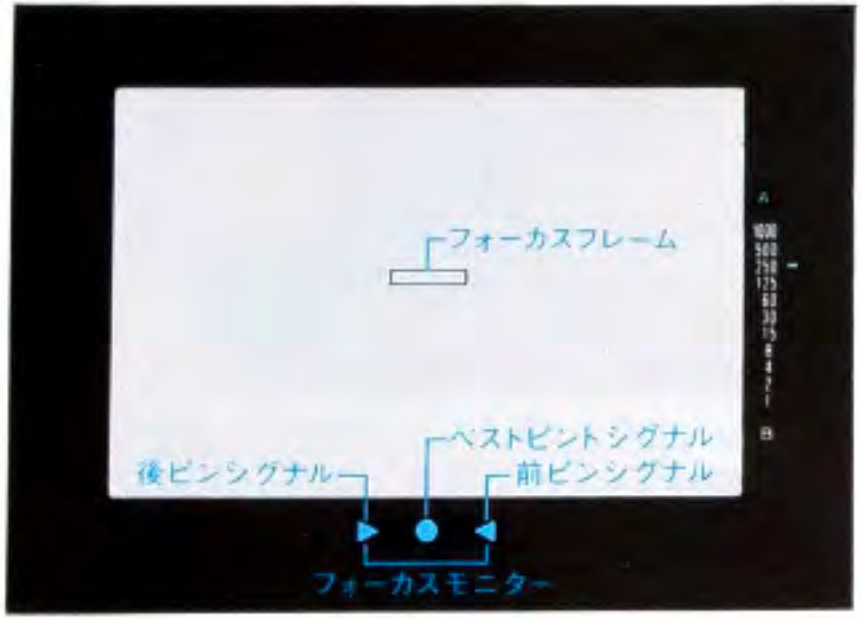
メモホルダーについて



使用フイルムの箱のふたを切り取ってメモホルダーに差し込んでおけば、撮影中のフイルムの種類、枚数がひと目でわかりますので、ご利用ください。

SFシステムによるピント合わせ

本機のSFシステムは、開放F No.F1.2～F4.5までのミノルタレンズと組み合わせて、フォーカスモニターによるピント合わせが可能です。



ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを重ね、シャッターボタンに指を触れてフォーカスモニターの表示を見ます。

- 焦点検出は、フォーカスフレーム内の被写体について行ないます。



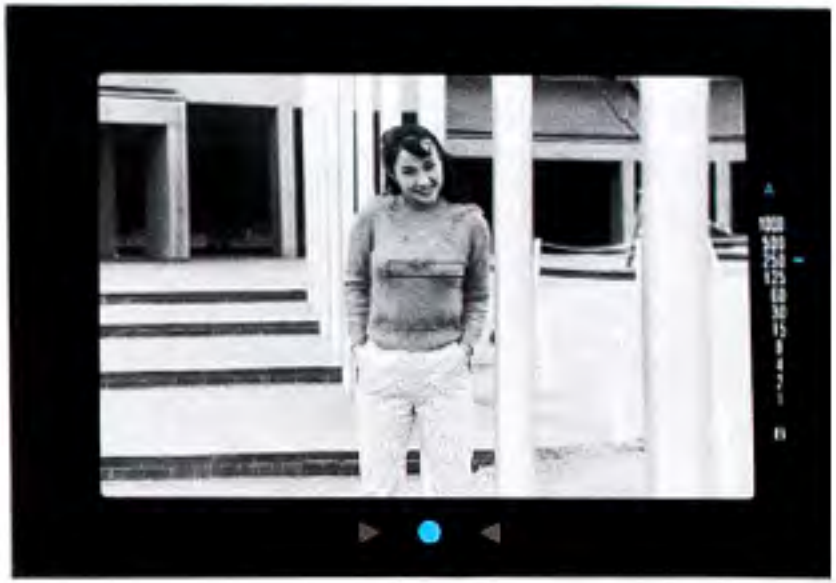


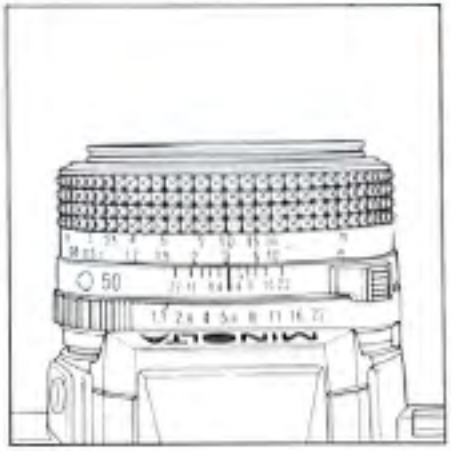
後ピンシグナル▶(赤LED)が点灯すればレンズの距離リングを右へまわします。





前ピンシグナル◀(赤LED)が点灯すれば、レンズの距離リングを左へまわします。





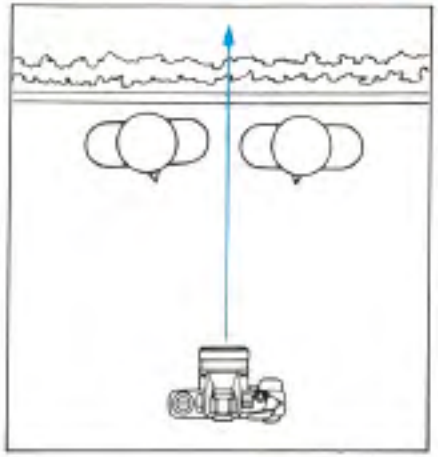
後ピンシグナルと前ピンシグナルが両方消灯し、ベストピントシグナル●(緑LED)が点灯すれば、ピントが合った状態です。

- メインスイッチがONのときピントが合うと電子ブザー音が鳴って知らせます。

写したいものがまん中にないとき

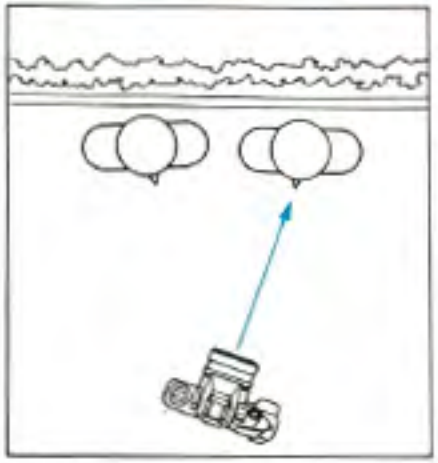
ピントを合わせたい被写体がフォーカスフレームに重ならない構図のときは、次のような手順でピントを合わせます。





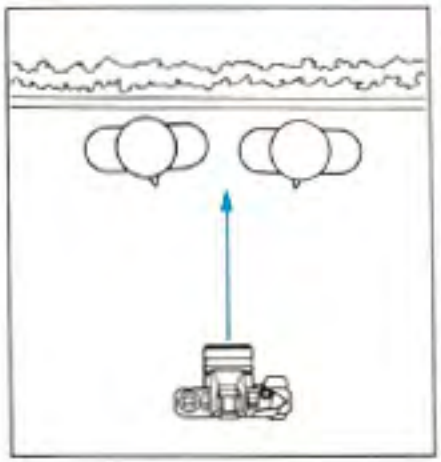
ピントを合わせたい被写体(人物)にピントが合っていません。





カメラを少し横へ振るなどして、ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを重ねたうえで、フォーカスモニターを見ながら距離リングを回してピント合わせをします。





あとは構図を自由に決めて、シャッターボタンを押します。

前ピンシグナル◀や後ピンシグナル▶が点灯してもこの場合、ピントを合わせたい被写体にピントが合っています。

苦手な被写体

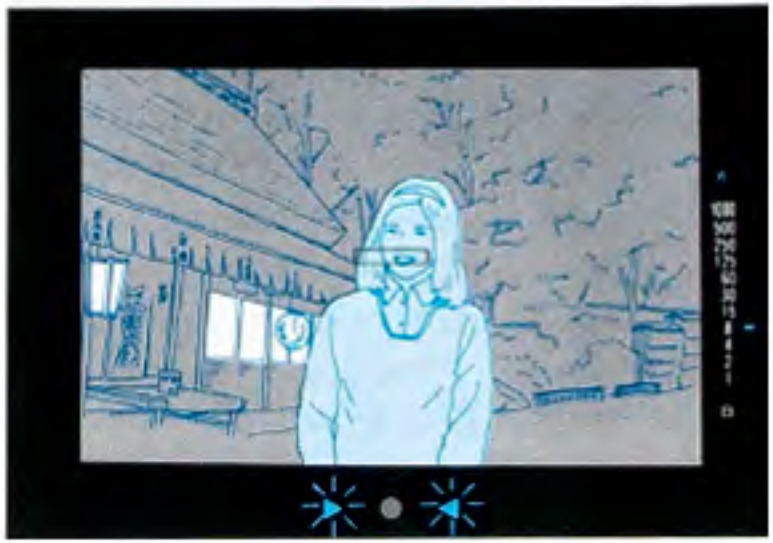
SFシステムは、多様な被写体に対して焦点検出が可能ですが、苦手な被写体もあります。次のような被写体にピントを合わせようとすると、前ピンシグナルと後ピンシグナルが同時に点滅したり（検出不能警告表示、右記1、2）、ベストピントシグナルが点灯してもピントが得られない（誤表示、右記3、4）ことがあります。その時は、苦手な被写体とほぼ等しい距離にある別の被写体にカメラを向けてSFシステムでピント合わせをするか、マット面でピント合わせをしてください。

1. コントラスト（明暗差）が非常に低い被写体や横方向に明暗差のない被写体（白壁やブラインドなど）…図A
2. 非常に暗い被写体…図B
3. 強い逆光状態にある被写体…図C
4. 遠くと近くに共存する被写体…図D

☒ A



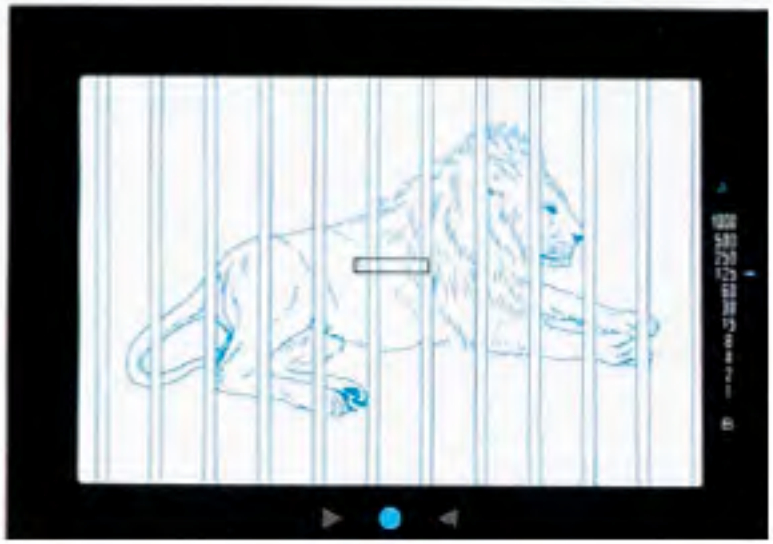
☒ B



☒ C



☒ D



レンズ・アクセサリー使用上の注意

レンズ、アクセサリーによっては、SFシステムが使えないものもありますのでご注意ください。
(適合性のない組み合わせて撮影する場合はマット面でピント合わせをしてください。)

1. 交換レンズについて

交換レンズ		SFシステムとの適合性
MDレンズ	開放F No. F1.2～F4.5	○※1
	開放F No. F5.6～	×
RFレンズ		×
シフトCA 35mm F2.8		○※2
バリソフト 85mm F2.8		○
オートベローズマクロ 50mmF3.5/100mmF4 ベローズマイクロ 12.5mmF2/25mmF2.5		×

※1　MDフィッシュアイ7.5mmF4は、固定焦点のため対象外。
MDマクロ100mmF4は∞～1mのときSFシステムが使えます。

※2　シフトしない状態のときSFシステムが使えます。

- SFシステムはSFセンサーセレクターピン付きMDレンズ(最小絞りロック付き)を取り付けたとき、より良好な性能が得られるように配慮されていますので、このレンズの使用をおすすめします。

2.アクセサリーについて

アクセサリー	SFシステムとの適合性
テレコンバーター(300-S)	○※3
MCオート中間リング、中間リングI	○※4
クローズアップレンズ	○
各種フィルター(ミノルタ製)	○
ベローズ	×

※3　開放FNo. F1.2～F2の交換レンズとの組み合わせでSFシステムが使えます。

※4　3本取り付け時、開放FNo. F1.2～F2の交換レンズとの組み合わせでSFシステムが使えます。(28mmF2を除きます。)

- オートワインダーGを取り付けて連続撮影する場合もSFシステムは使用できますが、被写体がかなり暗いときには、最初の表示がそのまま変わらずに表示されることがありますのでご注意ください。

マット面でのピント合わせ

ファインダーのフォーカスフレームを除く全面がマット面ですので、マット面での像がはっきり見えるようにピントを合わせます。

開放F No.が5.6より暗いレンズを使用するときや、苦手な被写体であるためSFシステムでピント合わせできないときは、マット面でピント合わせをしてください。

- 本機はフォーカシングスクリーンに明るいアキュートマットを採用しております。

オート撮影(絞り優先AE撮影)

オート撮影では、レンズにセットした絞り値と被写体の明るさに対応する適正なシャッター速度をカメラが自動的に決定します。



1 メインスイッチを ON または ON にセットします。



2 シャッターダイヤルを AUTO にセットします。



3 レンズの絞りリングを回して希望する絞り値にセットします。

ASA/ISO 100のフイルム使用時の絞り設定の目安

撮影条件	絞り値
直射日光下の屋外撮影	8、11、16、22
曇天、または日陰での撮影	2.8、4、5.6
室内撮影、または夜の撮影	1.2 、1.4、1.7、2、2.8



4 ファインダー(アイピース)をのぞき、距離リングをまわしてピントを合わせます。

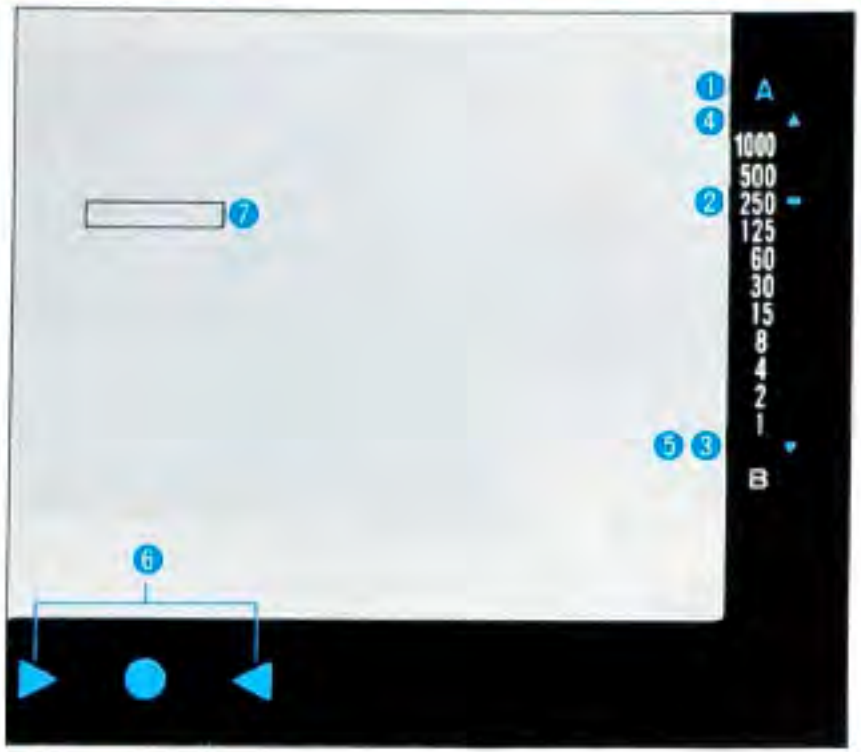
- アイピースから目を離して撮影するときは、アイピースからの逆入光を防止するため、接眼枠に付属のアイピースキャップを取り付けてください。
- X-600のファインダー視野率は、標準画面（24mm×36mm）に対して、縦約92%・横約94%です。撮影時にファインダーをのぞいて見た視野よりも、実際の撮影画面はやや広く撮影されます。



5 ピントが合ったら、シャッターボタンを押して撮影します。

★撮影されたプリント用フイルムからサービスサイズにプリントしたり、スライド用のフイルムをマウントすると、実際に撮影した画面よりやや狭くなります。撮影の際に画面の周辺部に少し余裕をとることをおすすめします。

ファインダー内表示について



❶オート撮影であることを表示します。

❷撮影されるシャッター速度を表示します。

- ■ LED が同時に2個点灯したときは、中間のシャッター速度を示します。

❸▼ LED が点灯したときは、1〜4秒までの長秒時シャッター速度を示します。

❹▲ LED が点滅したときは、■ LED が点灯するよう絞りを最小絞り側(大きい数値側)へセットし直してください。そのまま撮影すると1/1000秒でシャッターが切れ、露出過度になってしまいます。

❺▼ LED が点滅したときは、■ LED または ▼ LED が点灯するよう絞りを開放絞り側(小さい数値側)へセットし直してください。そのまま撮影すると4秒でシャッターが切れて露出不足になってしまいます。

- メインスイッチが ON のとき、1/30秒以下のシャッター速度であれば、電子ブザー音が鳴ります(シャッターボタンから指を離せばストップします)。そのまま撮影するとカメラぶれしやすいので、絞りを開放絞り側へセットし直すか、フラッシュ撮影するか、または三脚などでカメラを固定してください。

❻フォーカスモニター
(18ページ参照)

❼フォーカスフレーム
(18ページ参照)

フイルムの巻き戻し方

撮影の終わったフイルムは、次の要領で巻き戻して、直射日光を避けて取り出してください。

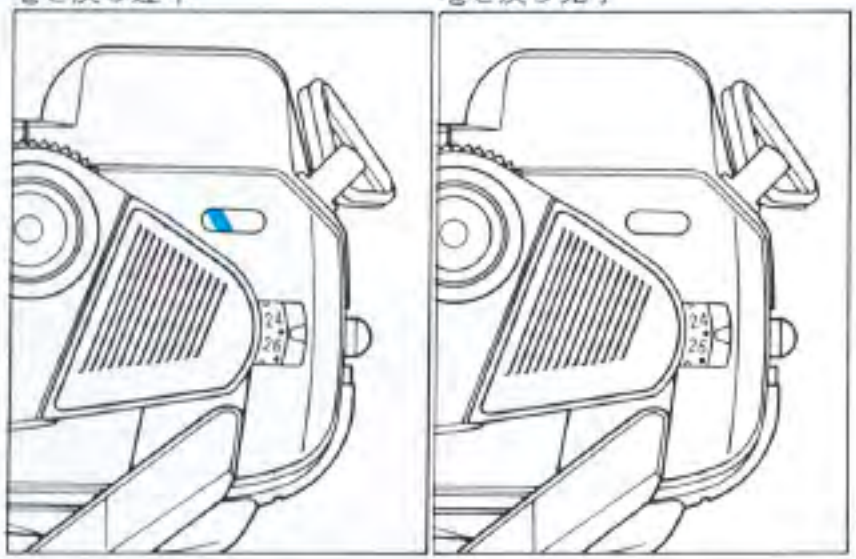


1 巻き戻しボタンを押し込みます。



2 巻き戻しクランクを起こし、クランクをつまんで矢印方向に回してフイルムを巻き戻します。

巻き戻し途中　　巻き戻し完了



●フイルムシグナルは、フイルムが巻き戻されるにしたがって右側から左側へ動きます。フイルムシグナルが左側へすっかり入ってしまい見えなくなったら、巻き戻しは完了です。



3 裏ぶたを開けてカメラからフイルムを取り出します。

★巻き戻しが完了するまで(フイルムシグナルが見えているあいだ)は、絶対に裏ぶたを開けないでください。

セルフタイマー撮影



1 フイルムを巻き上げ、ピントを合わせます。

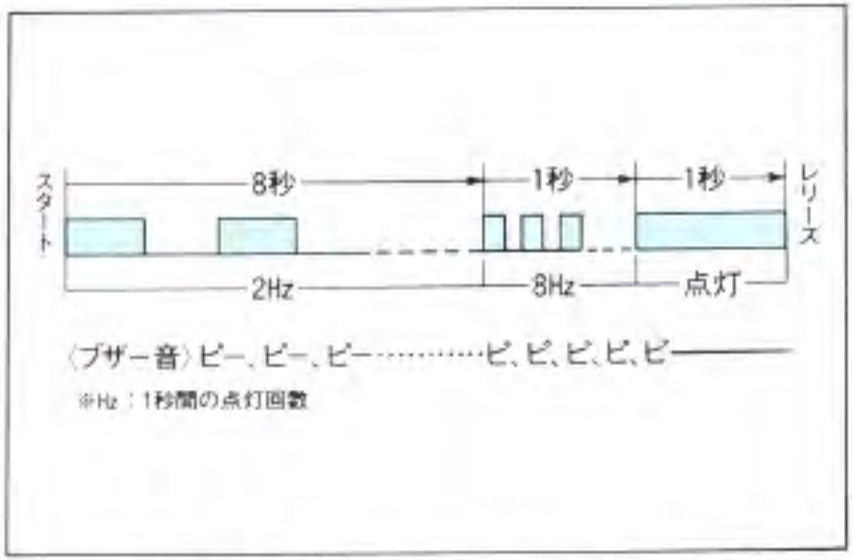


2 接眼枠の溝に付属のアイピースキャップをはめ込みます。

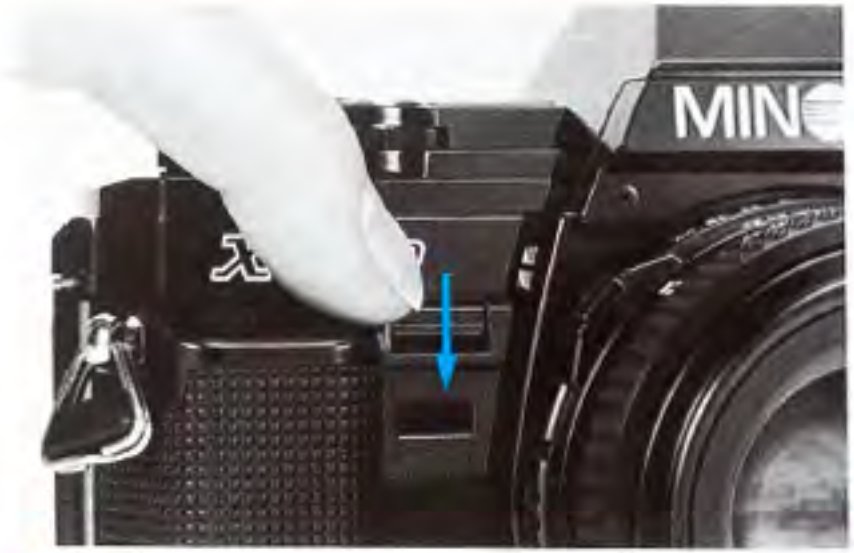


3 セルフタイマーレバーを上に引き上げてセットします。

4 シャッターボタンを押してセルフタイマーをスタートさせます。



- メインスイッチが ON のときは電子ブザーの断続音とセルフ作動表示ランプの点滅で作動を表示し、10秒後にシャッターが切れます。
- メインスイッチが ON のときはセルフ作動表示ランプの点滅で作動を表示し、10秒後にシャッターが切れます。



5 セルフタイマー撮影が終われば、セルフタイマーレバーを元に戻します。

- セルフタイマーレバーをセットしたままですと、次の撮影もセルフタイマー撮影となります。

- セルフタイマーの作動を途中で解除するときは、セルフタイマーレバーを元に戻すか、メインスイッチをOFFにします。
- セルフタイマーを用いてオート撮影するときは、アイピースからの逆入光を防止するため、アイピースキャップをしてください。
- フラッシュ撮影時にもセルフタイマー撮影できます。

★セルフタイマーは、シャッターダイヤルがB(バルブ)の位置では作動しません。

★三脚を使用する場合、三脚取り付けねじ穴の深さより(5.6mm)長い三脚ねじを使うと、カメラの内部機構を破損するおそれがありますので、ご注意ください。また、取り付けの際、カメラを回して必要以上の力を加えないでください。

フラッシュ撮影（オートエレクトロフラッシュ 280PX・360PXを使用する場合）

本機とオートエレクトロフラッシュ280PX・360PXを組み合わせると、ダイレクト測光による絞り優先オートフラッシュ撮影となり、作画意図や調光距離に応じて、レンズの絞りを開放から最小絞りまで自由に選ぶことができます。

- ここでは、オートエレクトロフラッシュ280PX を使って説明します。
- オートエレクトロフラッシュ360PXの場合、フラッシュのモードセレクターをTTLにセットしてお使いください。
- 詳しい使い方は、フラッシュの使用説明書をご覧ください。



1 ホットシューにフラッシュを取り付けます。



2 シャッターダイヤルをAUTOにセットします。

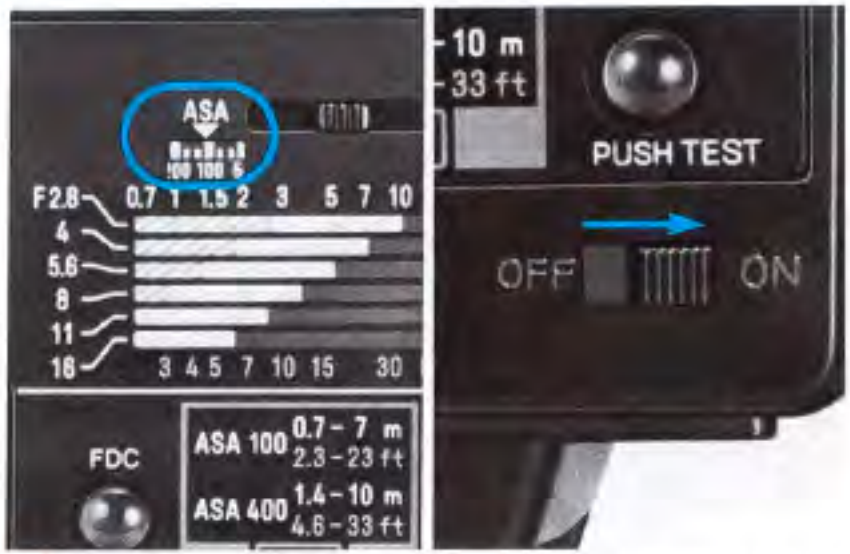


3 フラッシュの光量切り換えつまみをHiまたはLoに合わせます。

- オートワインダーGを装着して連続発光(毎秒約2コマ)させるときは、Loに合わせます。



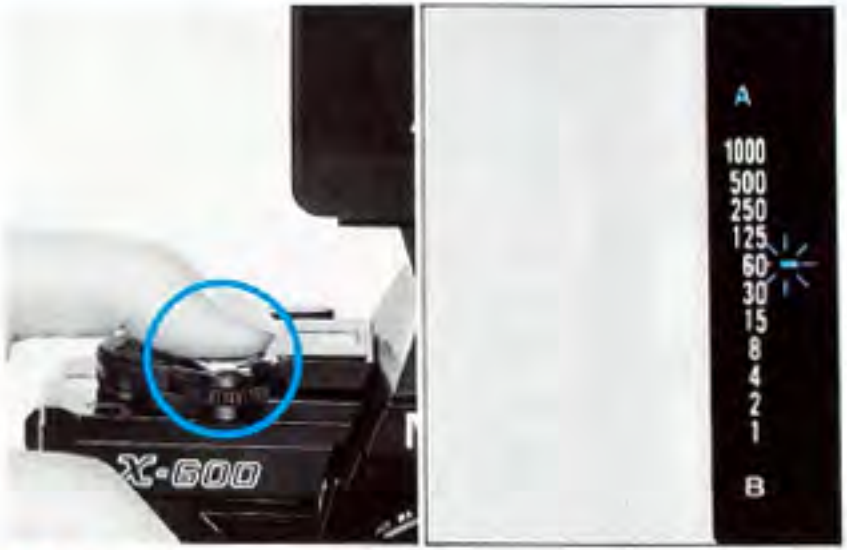
4 希望する絞り値にセットし、ピントを合わせます。



5 フラッシュのフイルム感度表示窓に使用フイルムの感度(ASA/ISO)を合わせ、セットした絞りで撮影距離が調光距離範囲にあるかを確かめます。

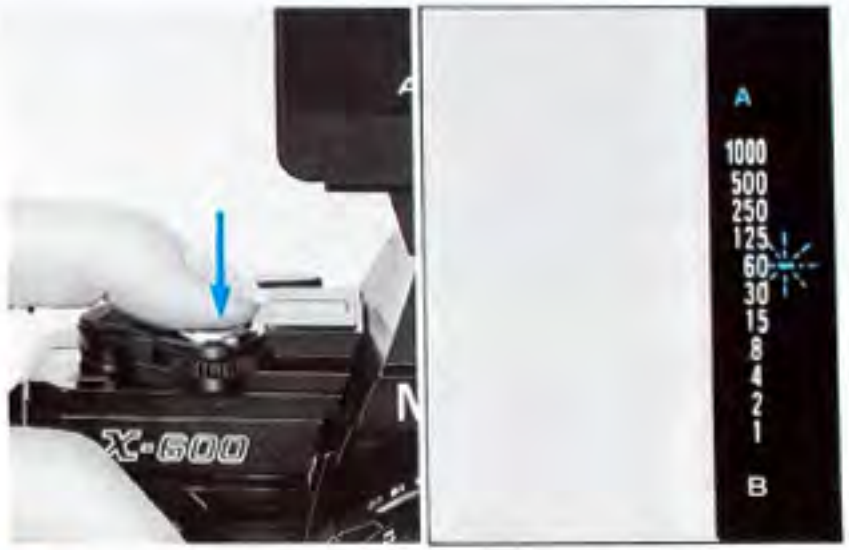
- 調光距離範囲内でないときは、絞り、または撮影距離を変えてください。

6 フラッシュの電源スイッチをONにします。



7 充電が完了したことを確認します。

- 充電が完了すると、フラッシュのモニターランプが点灯します。シャッターボタンに指を触れると、ファインダー内60横の ▬ LEDが点滅します。
- メインスイッチがON で、1/30秒以下のシャッター速度を表示しているときは、充電が完了すると、電子ブザー音が鳴りやみます。



8 被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを押して撮影します。

- 1/60秒の同調速度でシャッターが切れ、ダイレクト測光による絞り優先オートフラッシュ撮影となります。
- 適正露出が得られたときは、撮影後ファインダー内60横の ▬ LEDの点滅が速くなります(約1秒間)。また、フラッシュのFDCランプも点灯します(約2秒間)。

応用的な使い方



AEロックによる露出補正

オート撮影の場合、主要被写体とまわりの被写体に極端な明暗差があると、まわりの被写体の影響を受けて主要被写体が適正露出になりにくくなります。たとえば、人物の背景が極端に明るい場合にそのままオート撮影をすると、人物が暗く写ってしまいます。このような場合は、カメラのAEロックを使って露出の補正をします。

● AEロックは、オートで撮影する場合、撮影前に露出値をカメラに記憶させるための機構です。主要被写体とまわりの被写体に極端な明暗差があるときなど、AEロックによって主要被写体の露出値を記憶させて撮影すれば、主要被写体は適正露出になります。

露出補正する被写体の例

○逆光の人物
○空のたくさん入った風景や人物
○雪の上に立った人物
○スポットライトを浴びた人物

露出補正しない場合



露出補正した場合





1 適正露出にしたい被写体を、ファインダー内いっぱいにおさめます。

- 必要に応じて、被写体に近づいたり、ズームレンズの場合は望遠側にセットするなどします。



2 AEロックレバーをいっぱいまで押し下げます。

- レバーを押し下げた瞬間に、カメラが被写体の明るさに対応したシャッター速度を記憶(AEロック)しています。ファインダー内にはAEロックされたシャッター速度が■LEDで表示されます。
- レバーを押し下げているあいだAEロックが働き、指を離すと解除されます(測光およびファインダー内表示は、解除後15秒間継続されます)。
- 絞りをセットし直すときは、いったんAEロックを解除してください。



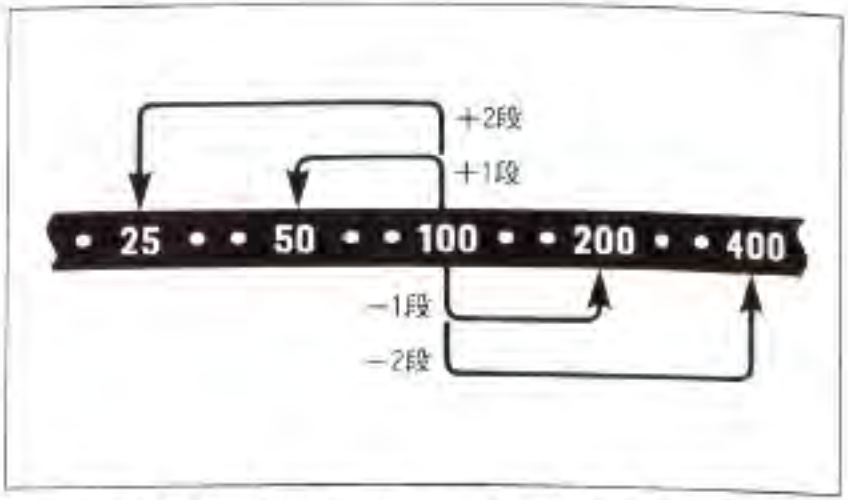
3 AEロックレバーを押し下げたまま、希望する構図に戻してシャッターを切ります。

- AEロックされたシャッター速度でシャッターが切れます。

● 焦点距離により絞り値の変化するズームレンズを使用する場合、AEロック後、焦点距離を変えると露出誤差を生じます。この場合はAEロックしたのち絞りリングで誤差を補正してください〈誤差補正量はレンズの使用説明書参照〉。たとえば誤差補正量-1段のときは、絞りを1段分最小絞り側へずらします。

連続して露出補正する場合およびR60フィルターを使用する場合

露出の補正は、フイルム感度ダイヤルをずらすことによってもできます。補正の方法は下表を参照してください。



● 露出を補正して撮影したあとは、必ず元のフイルム感度に戻してください。
● R60フィルターを取り付けて撮影する場合は＋1段の露出補正を行なってください。

スローシンクロオートフラッシュ撮影

本機とオートエレクトロフラッシュ280PX・360PXを組み合わせれば、1/60秒より遅いシャッター速度によるオートフラッシュ撮影(スローシンクロオートフラッシュ撮影)ができます。
シャッター速度が1/60秒より遅いような状況(夕景や夜景など)を背景にして、人物などをフラッシュ撮影する場合、通常のオートフラッシュ撮影では自動的に1/60秒でシャッターが切れるため、背景が露出不足になります。このような場合、背景の露出値をAEロックして1/60秒より遅いシャッター速度でオートフラッシュ撮影すれば、背景も人物も自然な雰囲気の写真が写せます。

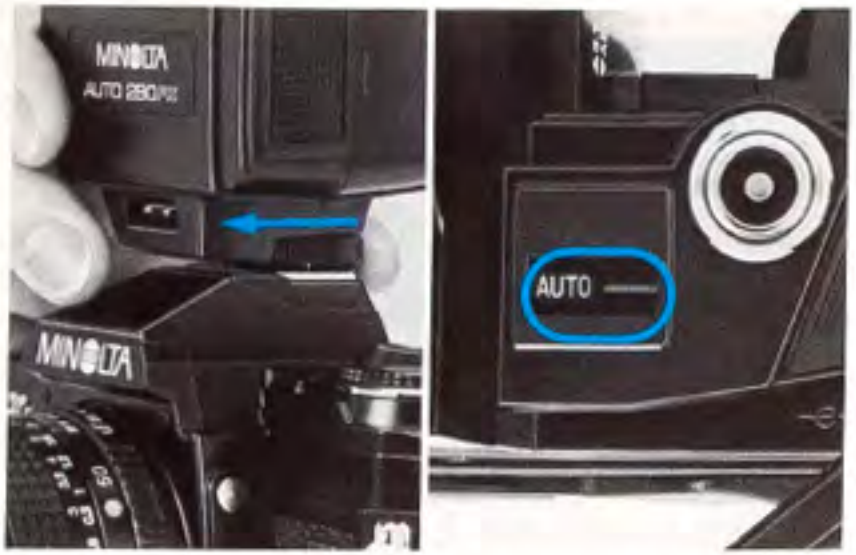
- ここでは、オートエレクトロフラッシュ280PXを使って説明します。
- オートエレクトロフラッシュ360PXの場合、フラッシュのモードセレクターをTTLにセットしてお使いください。

通常のフラッシュ撮影



スローシンクロオートフラッシュ撮影





1 ホットシューにフラッシュを取り付けます(フラッシュの電源スイッチはOFFのままにしておいてください)。

2 シャッターダイヤルをAUTOにセットします。



3 背景をファインダー内いっぱいにおさめます。



4 シャッターボタンに指を触れ、ファインダー内表示により、シャッター速度が1/60秒より遅いことを確めます。

- 1/60秒より速いシャッター速度が表示された時は、1/60秒以下のシャッター速度になるよう絞りをセットし直してください。そのまま撮影すると、通常の同調速度(1/60秒)でシャッターが切れて背景が露出過度になります。



5 フラッシュの電源スイッチをONにします。



6 背景をファインダー内いっぱいにおさめた状態でAEロックレバーをいっぱいまで押し下げます。

★AEロックは撮影が終わるまで解除しないでください。





7 充電が完了したことを確認します。

- 充電が完了すると、フラッシュのモニターランプが点灯します。ファインダー内ではAEロックされたシャッター速度横の■LEDが点滅します。



8 希望する構図に戻し、シャッターボタンを押して撮影します。

- AEロックされたシャッター速度でシャッターが切れ、ダイレクト測光によるスローシンクロオートフラッシュ撮影となります。
- 主要被写体の適正露出が得られたときは、撮影後ファインダー内の ■ LEDの点滅が速くなります(約1秒間)。また、フラッシュのFDCランプも点灯します(約2秒間)。
- スローシンクロオートフラッシュ撮影は、主要被写体(人物など)とカメラとの距離が、使用するフラッシュの調光距離範囲内となるように行なってください。
- シャッター速度が低速になりますので、カメラぶれにご注意ください。三脚のご使用をおすすめします。

マニュアル撮影

マニュアル撮影は、絞り値とシャッター速度の両方を自分で組み合わせて撮影する撮影方法です。本機ではファインダー内で、設定シャッター速度（シャッターダイヤルにセットしたシャッター速度）・適正シャッター速度（設定絞り値と被写体の明るさに対応したシャッター速度）が確認できます。シャッター速度を先に決定してから撮影するときや、入射光式などの単独露出計の露出決定に基づいて撮影するとき、および意図的に露出を変えて写真を写したいときにマニュアル撮影します。

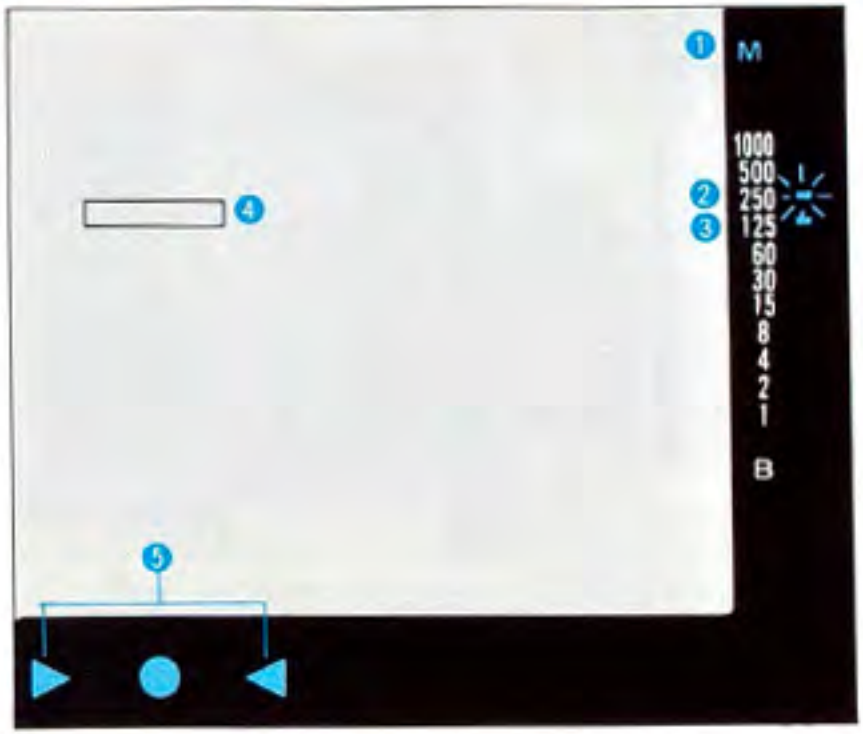


1 シャッターダイヤルを希望の速度（1000〜1）にセットします。



2 シャッターボタンに指を触れて、ファインダー内の表示を見ます。

ファインダー内表示



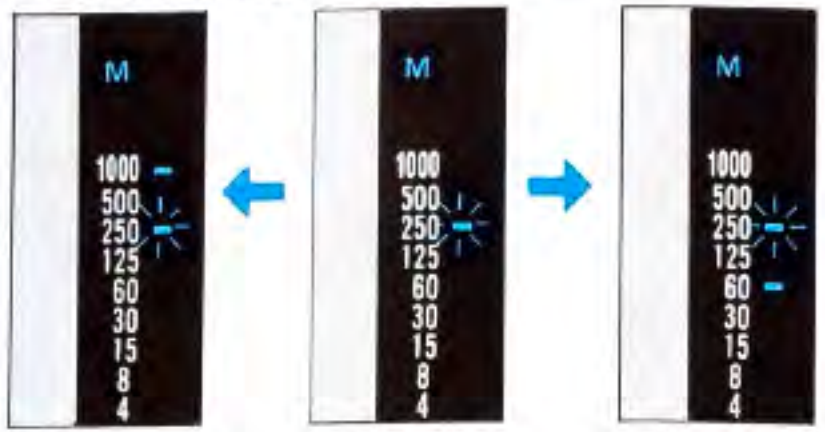
❶マニュアル撮影であることを表示します。
❷設定シャッター速度を点滅＝LEDで表示します。
❸適正シャッター速度を点灯＝LEDで表示します。
●点灯＝LEDが同時に2個点灯したときは、中間のシャッター速度を表示します。
❹フォーカスフレーム
❺フォーカスモニター



3 点滅■LEDと点灯■LEDが重なって点滅■LEDとなるように、絞りリング(または、シャッターダイヤル)を回します。

- 設定シャッター速度と適正シャッター速度を一致させて撮影すれば、適正露出が得られます。
- 意図的に露出を変えて写真を写したいときは、希望の段数だけ、設定シャッター速度と適正シャッター速度をずらして撮影します。

マニュアル撮影の露出設定の例



4 フイルムを巻き上げ、シャッターボタンを押して撮影します。

バルブ撮影(長時間露出撮影)

(夜景や天体写真などを写すときは、バルブ撮影してください。)

バルブ撮影では、シャッターボタンを押している間、シャッターが開いています。



1 シャッターダイヤルをBに合わせます。

- シャッターボタンに指を触れると、ファインダー内Bの横の • LEDが点灯します。

2 シャッターボタンを押して撮影します。
(写真はリモートコード使用)

- シャッターボタンから指を離せばシャッターが閉じます。

ファインダー内表示



Ⓐ • LEDが点灯し、B(バルブ)であることを表示します。

- フラッシュ撮影では • LEDが点滅して充電完了を知らせます。

- 新品のアルカリ乾電池を使えば、常温では連続10時間以上のB(バルブ)撮影ができます。ただし低温で使用すると電池の性能が低下し、撮影時間が短くなります。
- カメラのリモートレリーズターミナルにリモートコード(別売)を取り付ければ、遠隔操作できます。また、非常に長い時間の撮影にはシャッターを開けたままロックできるケーブルレリーズⅡ(別売)が便利です。

★天体写真などの長時間露出の途中で、カメラの電池がなくなるとシャッターが閉じます。このようなことが予想されるときは、あらかじめ新品電池に換えてお使いください。
★B(バルブ)撮影するときは、アイピースからの逆入光を防止するため、アイピースキャップをしてください。

フラッシュ撮影（ミノルタXシリーズのフラッシュを使用する場合）

- オートエレクトロフラッシュ280PX・360PXは除きます。
- ここでは、オートエレクトロフラッシュ320Xを使って説明します。
- 詳しい使い方は、フラッシュの使用説明書をご覧ください。



1 ホットシューにフラッシュを取り付けます。

2 シャッターダイヤルをAUTOまたは1000～1にセットします。



3 フラッシュの露出計算盤に、使用するフイルムの感度を合わせ、パネル目盛のNをパネル指標に合わせます。

4 A-M切り換えスイッチをAUTO（赤色、黄色、緑色のいずれか）に合わせます。



5 フラッシュの電源スイッチをONにします。



6 露出計算盤から絞り値を読みとり、レンズの絞りをセットします。



7 充電が完了したことを確認します。

- 充電が完了するとフラッシュのモニターランプが点灯します。シャッターボタンに指を触れると、ファインダー内、60横の■が点滅します。
- AまたはMのLEDは消灯します。



8 被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを押して撮影します。

- 1/60秒の同調速度でシャッターが切れます。
- シャッターダイヤルがB(バルブ)のときは、シャッターボタンを押しているあいだシャッターが開いています。

フラッシュ撮影（ミノルタXシリーズ以外のフラッシュを使用する場合）

「フラッシュ同調速度表」を参考にして、シャッターダイヤルをセットします。

- 一般にエレクトロフラッシュの場合は、シャッターダイヤルを60にセットします。
- 詳しくは、ご使用のフラッシュの使用説明書をご覧ください。

フラッシュ同調速度表

シャッターダイヤル / 使用するフラッシュ	B	1	2	4	8	15	30	60	125	250	500	1000
エレクトロフラッシュ	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×
MF級、M級、FP級バルブ	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×

○:同調する　　×:同調しない

被写界深度について

ある被写体にピントを合わせたとき、ピントを合わせた被写体はもちろん、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲が「被写界深度」で、範囲が広いときに「深度が深い」といい、範囲が狭いときに「深度が浅い」といいます。絞りを開放付近にして、背景をボカして主要被写体を浮き出させたり、最小絞り付近にして、奥行のある被写体全体にピントを合わせるなど、被写界深度を有効に使えば、写真表現が豊富になります。



被写界深度には、次のような性質があります。

①絞りを絞り込むほど被写界深度は深くなります。
②焦点距離の短いレンズほど深くなります。
③ピントを合わせた被写体の前方深度は浅く、後方深度は深くなります。

被写界深度を確認する方法には、次の2とおりがあります。

①レンズ鏡胴の深度目盛から読みとる方法
②各レンズの被写界深度表から読みとる方法(レンズの使用説明書参照)

レンズ鏡胴の深度目盛から読みとる方法



被写界深度は各レンズの深度目盛でもわかります。たとえば50mm標準レンズの場合、撮影距離が5mで、絞りをF8に合わせて撮影すると、▼マークの両側にある、8の範囲内(約3.5～10m)のものは、だいたい鮮明に写ることがわかります。深度目盛は目測でピントを合わせてスナップ撮影するときや、絞り効果を意図して撮影するときに利用すると便利です。

各レンズの被写界深度表から読みとる方法

レンズの使用説明書に記載されている被写界深度表から、被写界深度を読みとることもできます。被写界深度表の見方は、レンズの使用説明書をご覧ください。

赤外線写真撮影

赤外線フイルムとR60フィルターを用いて赤外線写真撮影を行なうときは、一般撮影のときとピントの合う位置が異なりますので、ピントの補正が必要です。そのため、ほとんどのミノルタレンズには、深度目盛のところにRマークや赤点および赤指標などで、赤外線用ピント補正の位置(赤外線指標)を示してあります。赤外線写真撮影をするときは、一度フィルターなしでピントを合わせたあと、フィルターを取り付けてから距離目盛の数値を赤外線指標までズラして撮影します。SFシステムは、フィルターなしでピント合わせするときに使用できます。



- 赤外線指標は、赤外波長768nmを基準にしています。赤外フラッシュを用いて赤外線写真撮影を行なう場合フラッシュ光の波長によっては、ピントが合わないこともありますので、あらかじめテスト撮影して、ご確認ください。
- 撮影するときは、赤外線フイルムの使用説明書に従って、露出を決めてからマニュアル撮影してください。

連動範囲について

オート撮影のとき、シャッター速度は4秒から1/1000秒まで無段階に自動的に決まります。連動範囲はF1.4レンズでASA/ISO100のときEV1～18です。また、ASA/ISO25のときはEV-1～16、ASA/ISO400のときはEV3～18となります。

交換レンズおよび付属品について

本機は、焦点距離7.5mmの魚眼レンズから1600mmの超望遠レンズまで、すべてのミノルター眼レフ用レンズが使えます。

1.MD/MCレンズ

オート・マニュアルで使えます。

2.オートプリセットレンズ

レンズ側に絞り込み機構のあるオートプリセットレンズは、絞り値をセットし、レンズの絞り込みボタンで絞り込んでシャッターを切れば、オート撮影できます。また、ファインダー内の露出表示は、オートのときも、マニュアルのときもレンズの絞り込みボタンで絞り込んだときの表示で確認します。

レンズ側に絞り込み機構のないオートプリセットレンズは、マニュアルで、絞り込み段数分だけ露出を補正したうえで撮影してください。オートで撮影すると、レンズの絞り込み段数がカメラ本体に伝達されないために、開放絞りで使用するときを除いて、絞り込み段数分だけ露出アンダーになります。

3.RFレンズおよびハンドプリセットレンズ

オート・マニュアルで使えます。

4.シフトレンズ

マニュアルで、シフトする前に絞り込み段数分だけ露出を補正したうえで撮影してください。シフトレンズをシフトして使う場合、画面中央部の測光範囲がイメージサークルの中心から外れ、シフト量に応じて測光誤差が生じます。また、シフトレンズではレンズの絞り込み段数がカメラ本体に伝達されないので、オート撮影すると、絞り込み段数分だけ露出アンダーになります。

5.付属品と組み合わせて使用する場合

カメラボディとレンズの中間に付属品（オートベローズⅠやMCオート中間リングなど）を使用する場合、レンズとの組み合わせにより撮影の仕方が異なりますので、下記の表のようにして使用します。

A：オート撮影
M：マニュアル撮影

使用レンズ / 付属品	MDレンズ	MCレンズ	オートプリセットレンズ	ハンドプリセットレンズ
中間リングⅡ	A	A	A	A
リバースリングⅡ	A	A	A	A
ベローズⅡ/M	A	A	A	A
コンパクトベローズ	A	A	A	A
オートベローズⅡ	A′	A′	A′	A
オートベローズⅠ	M	A※	A※	A
クローズアップレンズ	A	A	A※	A
MCオート中間リング	A	A	A※	A
MD/MC 2Xテレコンバーター	A	A	A※	A

Aと記入されているところはマニュアル撮影も可能です。
A′：オート撮影、マニュアル撮影いずれの場合もファインダー内の露出表示はオートベローズⅡのプレビューボタンを押し込んで読み取ります。

A※：使用レンズが絞り込み機構の付いたレンズである場合は、撮影する絞り値をセットした後、レンズの絞り込みボタンで絞り込んでシャッターを切ればオート撮影ができます。
絞り込み機構のないレンズの場合は、マニュアル撮影で使用し、絞り込み段数分の露出補正を行ってください。
M：マニュアル撮影で使用し、絞り込み段数分の露出補正を行ってください。

- 顕微鏡アダプターⅠを使用する場合はオート撮影ができます。
- 付属品を使用してオート撮影する場合（　部分は除く）、フイルム感度によって、連動シャッター速度範囲は以下のようになります。

（50mmF1.4レンズ使用時）

フイルム感度（ASA/ISO）	オート連動シャッター速度
25	4秒～1/1000秒
50	2秒～1/1000秒
100	1秒～1/1000秒
200	1/2秒～1/1000秒
400	1/4秒～1/1000秒
800	1/8秒～1/1000秒

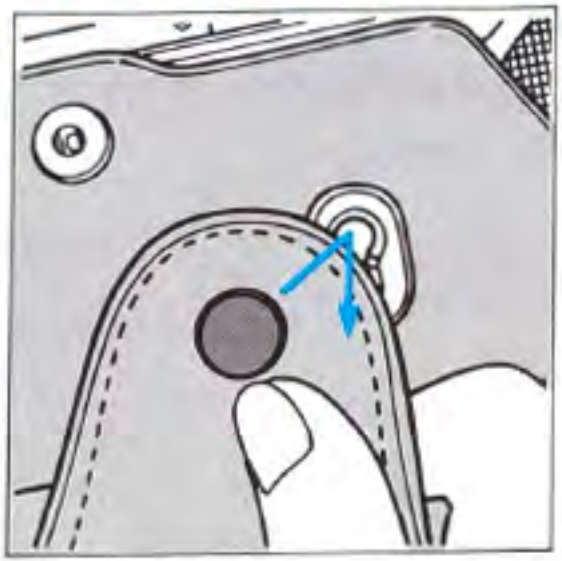
ケース(別売)の着脱

1.ケースの取り付け



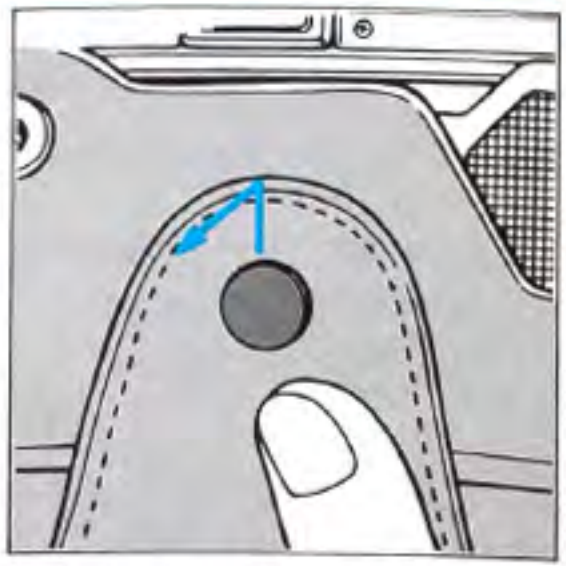
カメラをケースに入れ、ケースのフック(左右両側)を三角環に引っ掛けて、スナップを止めます。

2.前カバーの取り付け



ケース連結金具の突起をケースの穴に差し込んでから、下方にスライドさせます。

3.前カバーの取りはずし



前カバーを上方にスライドさせてから、手前に引いてはずします。

専用アクセサリー

1.オートワインダーG

X-600用の自動巻き上げ装置です。X-600に取り付けて使用すれば、常にフイルムが巻き上げ完了状態になっており、シャッターボタンを押すと、2コマ/秒の連続撮影や1コマ撮影ができます。巻き上げの煩わしさから解放され、作画に集中できるばかりでなく、常に巻き上げ状態にあるため、撮影のチャンスを逃がしません。電源には、単3形電池(マンガン乾電池、アルカリ乾電池、ニッケル・カドミウム蓄電池のいずれか) 4本を使います。



2. マルチファンクションバック

X-600用のノンコード式多機能データバックで、次のような特長を備えています。

①時計としての機能を備えています。
②カレンダーとしての機能を備えています。
1901～2099年の大小月・うるう年を自動判別。
③次の内容の数値を画面右下に写し込むことができます。
●時・分・秒 ●年・月・日 ●月・日・年 ●日・月・年 ●6ケタ固定数値
●6ケタカウント数値(撮影ごとに1ずつ加算されます。)
④次の内容でカメラの作動を自動制御することができます。
(オートワインダーG併用)
●長時間露光
●インターバル撮影(撮影から次の撮影までの時間を、制御します。)
●撮影コマ数指定(指定したコマ数だけ撮影すると、自動的にカメラの作動が停止します。)
●オートエレクトロフラッシュ280PX・320X(パワーグリップ2との併用による)、360PXの電源をインターバル撮影1分前に自動的にONし、撮影後OFFします。
⑤毎時0分0秒および写し込み終了後、自動的に電圧をチェックします。
電圧が低下してくると、液晶表示(LCD)が点滅して警告します。



3. クォーツデータバック1

X-600用のノンコード式データ写し込み装置で、次のような特長を備えています。

①時計としての機能を備えています。
24時間制で表示。即時呼び出し・0秒スタートが可能。

②カレンダーとしての機能を備えています。
1982～2099年の大小月・うるう年を自動判別。

③次の内容の数値を画面右下に写し込むことができます。
- 日・時・分　●年・月・日　●月・日・年
- 日・月・年　●6ケタまでの固定数値
- プラスカウント数値(撮影ごとに1ずつ加算されます。)
- マイナスカウント数値(撮影ごとに1ずつ減算されます。)

④毎時丁度および写し込み終了後、自動的に電池電圧をチェックします。
電圧が低下してくると、液晶表示(LCD)が点滅して警告します。



4. ワイヤレスコントローラーIR-1セット

オートワインダーGを装着したX-600を、離れた場所から操作するための装置で、最高60mまで可能です。送信機と受信機がセットになっていますが、受信機をそれぞれカメラにセットしておけば、1台の送信機で数台のカメラを同時に駆動できます。
また、送・受信のチャンネルを3種類まで選ぶことができるので、受信機のチャンネルをそれぞれ変えておけば、1台の送信機で3台のカメラを別々に駆動することもできます。本機の使用により、スポーツ写真、報道写真および動物や鳥などの生態撮影など、さまざまな分野でX-600の威力をさらに発揮させることができます。



5. オートエレクトロフラッシュ280PX・360PX

X-600に装着して使用すると、自由に設定絞り値が選択できるダイレクト測光による絞り優先オートフラッシュ撮影や露出条件を自由に設定できるマニュアルフラッシュ撮影ができます。そのほか、フラッシュ発光後、適正露出の確認ができるFDC機能やシンクロオートコントロール機能、そして2コマ/秒の連続フラッシュ撮影が可能な発光性能を備えています。さらに、360PXでは光量を9段階に切り換えられるほか、外部測光オートフラッシュ機能、バウンスフラッシュ機能、自動充電停止機能などを備えています。

オフカメラ用アクセサリー

オフカメラケーブル、オフカメラシュー、エクステンションケーブルは、280PX・360PXを、X-600から離した状態で撮影するときに使用します。被写体に対して自由な位置から照明ができるので接写・拡大撮影、意図的に明暗差をつけるライティング、バウンス撮影に威力を発揮します。さらに、多灯用アクセサリーのトリプルコネクターやケーブルCDと組み合わすことにより、3灯までの多灯オートフラッシュ撮影も可能です。



6.パワーグリップ2セット

パワーグリップ2セットは、オートエレクトロフラッシュ280PX・360PXの機能・性能を高めるとともに、オートワインダーやマルチファンクションバックなどのアクセサリーと有機的に結合することにより、X-600のフラッシュ撮影領域をさらに拡大します。オートワインダーGとの併用で2コマ/秒の連続フラッシュ撮影、マルチファンクションバックとの併用で撮影の間隔が長時間のインターバルフラッシュ撮影が可能です。そのほか、バウンス機能、グリップを握ったままでレリーズできるシャッターボタン、自動充電停止機能などを備えています。

パワーグリップ2用アクセサリー

パワーグリップ2用アクセサリー(ワインダーケーブル、マルチファンクションバックケーブル)は、パワーグリップ2を使用してのフラッシュ撮影に威力を発揮する専用アクセサリーです。ワインダーケーブルの使用により、パワーグリップ2のシャッターボタンでレリーズすることができ、機動性が向上します。また、マルチファンクションバックケーブルの使用により、フラッシュ電源のON・OFFが自動的に制御でき、効率の良いインターバルフラッシュ撮影を行なえます。



7. リモートコードS/L

X-600は電磁レリーズを採用していますので、リモートレリーズターミナルにリモートコードを取り付けるだけで、遠隔操作ができます。コードの長さはSが50cm、Lが5mです。リモートコードSは、三脚などを用いてシャッターを切るときにお使いください。カメラぶれを防止したいときに有効です。
リモートコードLは、野外の観察記録（野鳥、動物など）撮影で、被写体に近づけないときに最適です。



8. ケース

カメラケース

CH-4……標準レンズ用
CF-36 ……フロントケース（前ぶたのみ）
CF-41 ……フロントケース（前ぶたのみ）

電池に関する注意

1 下記の場合は、電池の液もれや破裂の原因となりますので、電池を入れるときにご注意ください。
- 種類の異なる電池を混ぜて使用する。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用する。
- 電池の極性を間違って入れる。

2 温度の低いところでは電池の性能が低下しますので、予備の電池を保温しながらご用意ください。なお、低温のために性能低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。

3 破裂の原因になりますので、電池を分解したり火の中へ投入したりしないでください。

手入れの仕方

1 カメラの清掃は、からぶきで

カメラは、ホコリをきらいますので、ときどき柔らかい清潔な布で軽くふきとってください。カメラボディにシンナー、ベンジンなどの溶剤は、プラスチック表面を溶かしますので、使わないでください。

2 レンズの清掃は、レンズクリーナーで

レンズを汚さないようにご注意ください。もし汚れた場合、ブロアーでホコリを除き、柔らかい清潔な布で軽くふきとってください。それでもとれないときには、レンズクリーニングペーパーに市販の液体クリーナー(コダック製、富士フイルム製)などをごく少量つけて軽くふいてください。液体のクリーナー以外は、絶対に使わないでください。

3 SFミラーには、手を触れないでください

小さなゴミや汚れがあっても、SFミラーの機能にはほとんど影響ありません。

4 海岸で撮影したあとは

カメラの表面を柔らかい布でよくふき、塩分などをふきとってください。

5 ボディのバヨネット座板面を清掃するときは

清潔な布で軽くふきとるだけにしてください。シンナー、ベンジンなどの有機溶剤は使わないでください。

保管の仕方

①2週間以上使わないときは

できるだけ電池を取り出しておいてください。電池の液もれでカメラを害することがあります。

②カメラの保管場所は

高温・多湿のところやほこりっぽいところは避けて風通しのよいところに保管してください。乾燥剤（シリカゲルなど）といっしょに保管すれば、より安全です。

③カメラを持ち運びするときは

自動車のリアウインドやトランクの中などに放置すると、真夏の炎天下では極度の高温になり、カメラを故障させることがありますので、このような場所には、カメラを放置しないでください。

取り扱い上の注意

①カメラは精密機械ですから、落としたり、大きな衝撃を与えないでください。また、カメラ内部に水滴が入ったりすると、内部の手の届かないところまで水分が、回ってしまい、部品がサビついてしまうことがあります。こうなると修理不能か、修理ができても修理費用が高くなりますので、水辺で使用するときは、十分ご注意ください。

②極めて低温のところで使用するときは、正規の作動をしないことがありますので、カメラを保温しながらお使いください。特に急激な温度の変化は、カメラ内部に水滴を生じる危険性がありますので、絶対に避けてください。

SFシステムに関するQ&A

Q：ベストピントシグナルが点灯しているとき、レンズの距離リングをほんの少し回しても、ベストピントシグナルが点灯したままですが、そのまま撮影してもピントがずれてませんか？

A：通常の撮影ではベストピントシグナルが点灯していればシャープな写真が得られます。しかし、特に明るい（F値の小さい）レンズを開放付近で使用する場合は、被写界深度が非常に浅いので、なるべくベストピントシグナルの点灯範囲のほぼ中央に合わせて撮影されることをおすすめします。

Q：フォーカスフレームのまわりにうっすら見えるリングは何ですか？

A：フォーカスフレームのまわりに見えるリングは、フレネルレンズの端で、焦点検出機構には関与しません。ピントを合わせるときは、フォーカスフレームに写したいものを合わせてください。

Q：ベストピントシグナルが点灯しているときに撮影した中に、ピンボケの写真がありました。なぜでしょうか？

A：フォーカスフレームに主要被写体（人物の顔など）と背景が入っていた場合が考えられます。（本文の22ページ、遠くと近くに共存する被写体、に該当）この場合はコントラストの高いものに対してフォーカスモニターが表示される性質があり、背景にピントが合ってしまうことがあります。従って、例えば人物の顔などを写したいときは、フォーカスフレームにほかの物が入らないようにするため、顔の輪郭ではなく、顔の中央にフォーカスフレームを重ねてピント合わせをしてください。X-600に搭載のSF機構は、人物の肌などに強く、輪郭などの特にコントラストの強い部分を狙う必要はありません。

主な性能

カメラタイプ	電子式焦点検出機構内蔵 電子制御式35mm フォーカルプレーンシャッターAE一眼レフカメラ
撮影方式	絞り優先AE撮影、マニュアル撮影
使用フイルム	パトローネ入り35mmフイルム(135型)
画面サイズ	24mm×36mm
レンズマウント	ミノルタ バヨネット マウント
標準レンズ	MDレンズ 50mmF1.2、50mmF1.4、50mmF1.7
露出制御測光方式	TTL開放測光、中央重点平均測光(専用フラッシュ使用時フイルム面測光)
受光素子	シリコンフォトセル
自動露出連動範囲	Ev1～18(ASA/ISO100、F1.4レンズ使用時)
AEロック	AEロックレバーの押し下げにより可能(専用フラッシュ使用時低速シャッター同調可能)
電子式焦点検出機構(SFシステム)	検出素子:SFセンサー　検出方式:TTL位相差検出方式 フォーカスモニター:ファインダー内表示後ピンシグナル、前ピンシグナル、ベストピントシグナルの3点LED表示、ベストピント時電子ブザー音(メインスイッチ ON のとき)、検出不能警告表示付 使用可能レンズ開放FNo.F1.2～4.5
SFセンサーの切り換え	Aセンサー・Bセンサーを内蔵、SFセレクターピン付きMDレンズ(最小絞りロック付き)使用時は開放F値に応じて自動切り換え、その他のMDおよびMCレンズ(SFセンサーセレクターピンなし)はBセンサーに設定
検出輝度範囲	Aセンサー / Ev. 4～17　Bセンサー / Ev. 5～17 (ASA/ISO100)…当社試験条件による
ファインダー倍率	0.9倍(50mm標準レンズ∞のとき)
ファインダー視度	−1 diopt
視野率	縦92%、横94%(標準画面24mm×36mmに対して)
フォーカシングスクリーン	中央部…フォーカスフレーム、周辺部…アキュートマット(フォーカスフレーム内を除く全面)

ファインダー内表示	露出表示：撮影モード表示LED、シャッター速度数値、測光シャッター速度およびマニュアル撮影時の設定シャッター速度表示用LED、長秒時表示、シャッター速度連動外警告LED、バルブ目盛、バルブ表示LED、フラッシュ充電完了シグナル、FDC表示
バッテリーチェック	撮影モード表示LED(AまたはM)により表示　点灯…可　点滅…警告　消灯…不可
フォーカス表示	フォーカスモニターLED(後ピンシグナル、前ピンシグナルは赤色、ベストピントシグナルは緑色)、検出不能警告表示(後ピンシグナル、前ピンシグナルの両方点滅)、フォーカスフレーム
シャッター型式	電子制御式横走りフォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	オート(Aモード)/4秒～1/1000秒(無段階) マニュアル(Mモード)/1、1/2、1/4、1/8、1/15、1/30、1/60、1/125、1/250、1/500、1/1000、B(バルブはカメラの電池消合により制限される)
シャッターダイヤル	クリックストップ式エンドレスダイヤル(AUTO位置ハードクリック)
シャッターレリーズ	電磁レリーズ、リモートコード取付け可能、ワイヤレスコントローラーIR-1セット取り付け可能。電池電圧低下時シャッターレリーズロック、シャッターボタンはセンサースイッチ付(センサースイッチから指を離しのち5秒間は表示を維持します)
カメラぶれ警告	Aモード撮影で1/30秒以下の遅いシャッター速度のとき、電子ブザーの断続音で警告(メインスイッチONのとき)
セルフタイマー	電子セルフタイマー、シャッターボタンによるスタート、作動時間10秒、LED点滅と電子ブザーの断続音(メインスイッチONのとき)で作動表示、シャッター作動前予告付、途中解除可能
フラッシュ同調速度	X接点、エレクトロフラッシュは1/60秒以下の低速度に同調、フラッシュバルブは1/15秒以下の低速度に同調、専用フラッシュ使用時のAモード撮影ではAEロックにより1/60秒より低速度で同調可能、Mモードではシャッターダイヤルの位置にかかわらず1/60秒で同調
ホットシュー	ダイレクト接点、シンクロオートコントロール接点、ダイレクトオートコントロール接点
フイルム巻き上げ	一作動レバー巻き上げ式、巻き上げ角130°、予備角30°　オートワインダーGによる自動巻き上げ可能
フイルムカウンター	自動復元順算式
フイルム巻き戻し	巻き戻しボタンおよび巻き戻しクランクによる方式、巻戻しボタン自動復元

裏ぶた	裏ぶた開閉ノブ引上げ式、ワンタッチロック式、グリップ付、メモホルダー(フイルム感度換算板)付、マルチファンクションバックおよびクォーツデータバック1装着可能
使用電池	単4形アルカリ乾電池(1.5V/JIS、IEC LR03)、または単4形マンガン乾電池(1.5V/JIS UM-4、IEC R03)2本
フイルム感度目盛	ASA/ISO 12～3200(1/3段ごとにロック付)
ミラー	スライドアップ式クイックリターンミラー(SFミラー/サブミラー付)
メインスイッチ	スライド式スイッチ、OFF、ON、ON
その他	フイルムシグナル付、アイピースキャップ付
大きさ	90mm(高さ)×137mm(幅)×51.5mm(奥行)
重量	(ボディのみ):490g(電池別)

●ここに記載の性能および製品の外観は、都合により予告なく変更することがあります。

アフターサービスについて

①本製品の補修用性能部品は10年間を目安に保有しております。
②アフターサービスに関しては『アフターサービスのご案内』に詳しく記載しておりますので、ご覧ください。



ミノルタカメラ株式会社

〒541 大阪市東区安土町2丁目30番地（大阪国際ビル）
TEL (06)271-2251(代)
〒105 東京都港区浜松町2丁目4番1号(世界貿易センタービル)
TEL (03)435-5511(代)

9223-2023-21 HCIBN-3